「明日の京都」をみんなで一緒に考えてみませんか

京都府の「明日の京都」ビジョンは、こうして検討しています。

◆現在の「新京都府総合計画（新府総）」の計画期間が平成22年末で終了。そのため、これからの府が進むべき道筋を示す新しいビジョンづくりを昨年8月から進めています。

◆変化の激しい時代に、柔軟かつ機動的にさまざまな課題に対応できるよう、府民の皆さんとともに、以下の4つの体系でつくっていきます。

「基本条例」

「どのような考え方で、何を大切にしながら府政を進めていくのか」を示す条例。時代や社会情勢の変化に関わらず、府政運営の基本的な考え方やあるべき行政運営、地域づくりの理念を中心に掲げます。

「長期ビジョン」

「これからの京都府はどのような価値観、文化観をもって進んでいくのか」を明確にするビジョン。10年、20年後を見据えて、将来の京都府はこんな風になっていたいという社会像を描いていこうとするものです。

具体的にはこの2つの計画で「明日の京都」づくりを進めます。

「中期計画」

長期ビジョンの目指すゴールに着実に向かっていくため、向こう4～5カ年間に実施する重点施策・事業をまとめます。

「地域振興計画」

「山城」・「南丹」・「中丹」・「丹後」の4つの広域振興局ごとに、地域資源を生かした振興策や課題に対応する方策を、皆さんの意見を踏まえて策定します。

（京都府政策企画部作成）

幅広い議論で意見を反映

京都府知事
山田 啓二

京都府政の基本的な指針「新京都府総合計画（新府総）」が来年末で計画期間の満了を迎えます。このため、府では府民の皆さんの思いを反映し、次の10年、20年をしっかり展望した京都をつくっていくよりどころとして、「明日の京都」ビジョンの作成に取り組んでいます。

今は、百年に一度といわれる経済危機のさなかにあり、雇い止め、ワーキングプアーなど厳しい雇用情勢、少子化・高齢化の進展、新型インフルエンザの流行など目の前に緊急の課題が山積しています。こうした中では、今日のことを考えるのが精いっぱいかもしれません。しかし、苦しい時だからこそ、自分たちの足元を踏み締めながらも、明日に向かい、希望を持って次の世代の子供たちに「どうすれば私たちの京都をより良い姿で引き継いでいけるか」を真剣に考えていかなければならないと思っています。

夢を語らなければ、未来はやってきません。昨日と同じ今日を積み重ねただけの「未来」で終わらせるのではなく、求める夢が現実になった姿として「未来」をとらえたいと思います。

これからの府政は、何を大切にしながら進めていくのか、皆さんとともにその原点を「基本条例」として定め、京都のありたい姿、府民の願いを「長期ビジョン」としてともに描く。そしてそれを夢で終わらせるのではなく、確かな未来に変えていくために、具体策を盛り込んだ中期計画を策定します。

「明日の京都」づくりのために、府民の皆さんの思いや願いをつなぎ、多くの人々の知恵を集めながら、全力で取り組んでいきたいと思います。

1人ひとりの力が地域の力に　in 南丹

7月25日（土）　ガレリアかめおか

南丹地域では、亀岡出身の立命館大女子陸上競技部コーチ・十倉みゆきさんがゲストスピーカーとして登場。十倉さんは「人が何かをするとき、時間、空間、仲間の3つの条件が必要といわれますが、今の自分があるのは素晴らしい環境と指導者や友人・家族に恵まれていたからだ、と思えるようになってきました」と地元南丹地域の良さを話されました。その上で「地域力向上と駅伝の世界でのチーム力向上は似ており、全体の力が向上するためには、一人ひとりが元気でプライドを持って生活することが必要」とのお話しがありました。

参加者からは、「地域の中で若者がいかに生活していけるか、地域の中の教育、就職、そして若者同士のコミュニティーなど地域とのつながりが必要」という発言や、NPOの代表者から「地方分権の時代、地域のことは地域で、自分たちのことは自分たちでやることが基本」との発言がありました。

陸上競技部コーチ・十倉みゆきさん

最後に山田知事が、「南丹地域は、京都・大阪と近接し、産業面でも農業面でも重要な地域。また、NPOパートナーシップセンターも開設し、ますます府民の皆さんのNPO活動が盛んになることを頼もしく思っている。行政がこうした活動を支え、皆さんと一緒によりよい地域になるよう取り組んでいきたい」との言葉で締めくくりました。

海外から見えた地元の良さ　in 中丹

7月19日（日）　舞鶴市政記念館

パティシエ・水野直己さん

中丹地域では、福知山生まれの世界一のチョコレート職人、水野直己さんがゲストスピーカーとして登場。水野さんはワールドチョコレートマスターズ2007フランス・パリ大会でアジア人として初めて優勝されました。「東京で仕事をしていましたが、地元のみなさんにおいしいお菓子を食べて欲しくて、今年福知山に帰ってきました。地元には今まで気づかなかった紫ずきんをはじめとした素晴らしい食材がたくさんあります。お菓子に対する考え方も変わってきました。いろんな意味で地元の活性化のためにお手伝いできればと思っています」とのお話がありました。

参加者からは「紫ずきんの菓子」のように福知山・舞鶴・綾部3市の特徴のある素材をいろいろな形で発信することにより、中丹ブランドが全国に広められるとの意見がありました。また、舞鶴港について、北の玄関口として諸外国との人的・物的交流を通じさらに発展することを切に希望しているとの発言もありました。

最後に山田知事が、「中丹地域は海あり山ありの恵まれた自然の中に、工業団地や港もある条件のそろった地域。未来へ向かって大きな夢を持てる地域として、その夢を実現できるよう一緒に頑張りましょう」との言葉で締めくくりました。

未来を紡ぐ「明日の京都」ビジョン
あなたとつなぐ府民交流会

豊かな環境を次世代に　in 山城

7月26日（日）　パルティール京都

山城地域では、木津川在住の木のおもちゃ作家・多胡歩未さんがゲストスピーカーとして登場。「私のライフスタイルは自然に寄り添い、楽しむこと。日本でも最近エコが叫ばれはじめましたが、私が修業したドイツと比較すると、個人の意識レベルはまだまだです。今の環境は確実に次世代に引き継がれ、大人の取り組みは子どもに受け継がれます。幸い加茂は自然が多いので、まもなく生まれる子どもには幼い時から自然とともに生きる知識を身につけさせたい」とのお話がありました。

参加者からは、「地産地消を目指しファームを立ち上げたが、行政には地域の方々に提供できる農地や、販路を含む環境整備をお願いしたい」といった意見や、「介護の仕事はきつい割に給与が安いため、なり手が少ない。高齢化社会を迎える中、安心して生活できるよう府も考えてほしい」との要望もありました。

木のおもちゃ作家・多胡歩未さん

最後に山田知事が、「山城地域は日本の縮図のような地域。過疎・高齢化で悩む地域もあれば、人口が増加し、さまざまな面で問題を抱えている地域もある。この地域が明日に向かって進んでいくためにも、参加者をはじめ住民のみなさんが夢を共有し、未来をつくっていってほしい」との言葉で締めくくりました。

丹後の自然が作品に　in 丹後

7月20日（月・祝）　みやづ歴史の館

丹後地域では、宮津出身の書道家、高岡亜衣さんがゲストスピーカーとして登場。高岡さんは京都市内と宮津市内に書道教室を持ち、宮津には月2回戻ってくるという生活をされています。「18歳まで宮津にいましたが、その当時は山も海も天橋立も、あるものすべてが当然だと思っていました。京都市内にもたくさんいいところがありますが、離れたからこそ丹後の自然のよさがしみじみわかります。作品にもかなり影響しています」とのお話がありました。

参加者からは、京都府と3市2町の行政、民間で構成する「丹後広域観光キャンペーン協議会」を通じ、「丹後地域の自然は、ものづくりの世界でアピールしていくべきもの」とのお話がありました。

書道家・高岡亜衣さん

参加者からは、「丹後地域は海あり山ありの恵まれた自然の中に、工業団地や港もある条件のそろった地域。未来へ向かって大きな夢を持てる地域として、その夢を実現できるよう一緒に頑張りましょう」との言葉で締めくくりました。

もっと活用していくべき、また、天橋立を世界遺産にすべく声をあげていこうとの意見がでました。また、京都縦貫自動車道の全線開通をはじめ、丹後地域やその先につながる道路整備の見通しについても質問がありました。

最後に山田知事が、「平成26年の完成を目指している京都縦貫自動車道をはじめ、丹後地域は今、社会的基盤が整いつつある。豊かな自然を守りつつ、せっかくの大きな投資を未来に生かすにはどうしたらいいのか、みんなで一緒に考えていきましょう」との言葉で締めくくりました。

皆さんのご意見をお待ちしております。

京都府計画課
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入
TEL　075-414-4348
FAX　075-414-4389
E-mail　keikaku@pref.kyoto.lg.jp

「明日の京都」ビジョン府民交流会

日時 ◆ 平成21年10月11日（日）
午後2時～4時

場所 ◆ 京都商工会議所 講堂

参加者募集中!

パネリスト
山田啓二　京都府知事
門川大作　京都市長
立石義雄　京都商工会議所会頭
齊藤　修　京都新聞社代表取締役社長
池坊美佳　華道家元池坊青年部代表

コーディネーター　ジェフ・バーグランド　京都外国語大学教授
司会　村井　杏侑美　第6回京都学生祭典委員長